

平成 29 年神奈川県
国家戦略特別区域限定保育士試験問題

保 育 の 心 理 学

(選択式 20 問)

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル (HB～B) で、濃くはっきりとマークすること。
正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。

(良い例) …  (濃くマークすること。はみだしは厳禁。)

(悪い例) … 

- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次の文は、子どもの発達に関する記述である。(A) ~ (E) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

発達を支える要因には、(A) と (B) という2つの大きな側面がある。(A) とは、人間という種に固有な時間の経過とともに変化する身体的、(C) 変化のことである。(B) とは、(D) によって新しい行動を獲得する能動的変化のことをさす。この(A) と (B) の2つの側面には、遺伝と(E) という問題が深くかかわっており、保育においては、保育者は子どもが自発的、意欲的に関わるような(E) を構成することが求められる。

【語群】

ア	成育	イ	環境	ウ	生理的	エ	本能
オ	学習	カ	遺伝的	キ	成熟	ク	経験

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | エ | ウ | イ | ク |
| 2 | ア | エ | カ | ク | イ |
| 3 | キ | エ | カ | イ | ク |
| 4 | キ | オ | ウ | イ | ク |
| 5 | キ | オ | ウ | ク | イ |

問2 次の文は、「保育所保育指針」第4章「保育の計画及び評価」の(1)「保育士等の自己評価」の一部である。(A)～(D)にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

ア 保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その(A)の向上や(B)の改善に努めなければならない。

イ 保育士等による自己評価に当たっては、次の事項に留意しなければならない。

(ア) 子どもの活動内容やその結果だけでなく、子どもの心の育ちや(C)、取り組む過程などに十分配慮すること。

(イ) 自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、(A)の向上及び(D)の向上のための課題を明確にするとともに、保育所全体の保育の内容に関する認識を深めること。

【語群】

ア 意欲	イ 保育の質	ウ 重要性	エ 保育実践
オ 保育活動	カ 態度	キ 専門性	ク 養護の質

(組み合わせ)

A B C D

1 ウ エ ア イ

2 ウ オ カ ク

3 キ エ ア イ

4 キ エ ア ク

5 キ オ カ イ

問3 次の【Ⅰ群】の発達の理論と【Ⅱ群】の人物を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A 認識は、主体と環境との相互作用によって構成されていくものであると捉え、認識の発達には、スキーマを用いて環境からの情報を同化したり、環境に適応するために現在のスキーマを調節することによって生じるとした。
- B 愛着理論と深く関係し、生後3年間における母性的養育の喪失が精神的不健康の最大の要因であり、その喪失を母性剥奪（マターナル・デプリベーション）と名づけた。
- C 発達のメカニズムを社会の中で文化的・歴史的に培われてきたものが、教育をはじめとする社会的な営みによって個人に内面化される過程と捉えた。
- D 人間は常に高い価値を求めて成長していくものであるという発達観から欲求階層説をとらえ、発達における自己実現理論を構築した。
- E 道徳性の発達に関連し、道徳性の発達を正義と公平さについての推理の発達であるにとらえ、前慣習的水準、慣習的水準、脱慣習的水準という水準を提唱した。

【Ⅱ群】

- | | | | |
|---|-------------------------|---|-----------------------|
| ア | ピアジェ (Piaget, J.) | イ | マズロー (Maslow, A.H.) |
| ウ | ヴィゴツキー (Vygotsky, L.S.) | エ | コールバーグ (Kohlberg, L.) |
| オ | アドラー (Adler, A.) | カ | バウアー (Bower, T.G.R.) |
| キ | ボウルビィ (Bowlby, J.) | ク | バンデューラ (Bandura, A.) |

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | ウ | カ | エ |
| 2 | ア | ウ | ク | エ | キ |
| 3 | ア | キ | ウ | イ | エ |
| 4 | ウ | ア | オ | カ | キ |
| 5 | エ | オ | ア | ク | カ |

問4 次の文は、子どもを取り巻く環境についての考え方に関する記述である。この考え方を提唱した人物として正しいものを一つ選びなさい。

子どもの生活を取り巻く環境には、身の回りにある物や人、空間など目に見える環境のほかにも、子どもが直接には関わらないが親や園などを取り囲む環境や、さらには、文化や価値観といったものも含めて考えなければならない。そのような環境を、入れ子構造の、マイクロシステム、メゾシステム、エクソシステム、マクロシステムという4つの包括的なシステムとして捉えた。

- 1 ワトソン (Watson, J. B.)
- 2 フェスティンガー (Festinger, L.)
- 3 ローレンツ (Lorenz, K.)
- 4 ブロンフェンブレンナー (Bronfenbrenner, U.)
- 5 ブラゼルトン (Brazelton, T.B.)

問5 次の文は、生後1歳頃までに獲得する運動発達についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 目の前に提示された物体の動きを捉えようと、目で追う行動が始まる。
- B 小さな物を、親指と人差し指の二本の指でつまむことができる。
- C 5秒程度、片足で立っていることができる。
- D 物につかまって立ち上がることができる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問6 次の【Ⅰ群】のピアジェ (Piaget, J.) が提唱した思考の発達段階と、【Ⅱ群】の説明を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A 感覚運動的段階
- B 前操作的段階
- C 具体的操作段階
- D 形式的操作段階

【Ⅱ群】

- ア 身振り動作や言語を用いた象徴的な思考ができるが、まだ非論理的である。
- イ 抽象的な思考が可能になる。具体物がなくとも、論理関係だけを思考の対象として推論できる。
- ウ 吸う、なめる、触る、つかむ、たたく、見るなどによって外界を知る。
- エ 実際に扱うことができるものであれば、論理的な思考が可能になる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ウ | ア | エ | イ |
| 2 | ウ | イ | ア | エ |
| 3 | ウ | イ | エ | ア |
| 4 | エ | イ | ウ | ア |
| 5 | エ | ウ | イ | ア |

問7 次の文は、言葉の発達に関する記述である。(A) ~ (D) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

新生児期、乳児は養育者の口元を見つめてその動きに引きずられるように口を動かす(A) が見られることがある。また、生後2か月頃になると、(B) と呼ばれる産声のような叫び声や泣きの他に、(C) と呼ばれる喉の奥から出すような音声が聞かれるようになる。このようなとき、養育者は、普段よりも高く抑揚のある声で応答することが多い。この話しかけ方は、(D) と呼ばれ、こういった乳児がのりやすい話し方の工夫が言葉の発達を促すと考えられている。

【語群】

ア	共鳴動作	イ	ブーイング	ウ	マザリーズ	エ	即時模倣
オ	叫喚発声	カ	生理的微笑	キ	クーイング	ク	相互作用

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | オ | キ | ウ |
| 2 | ア | カ | イ | ウ |
| 3 | ア | カ | キ | ウ |
| 4 | エ | オ | イ | ウ |
| 5 | エ | オ | キ | ク |

問8 次の文は、アタッチメントタイプに関する記述である。(A) と (B) にはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

安定型は、母親との信頼関係をもとにした行動が見られ、安定した適切な愛着の発達を示す。(A) と (B) はともに、愛着の発達に問題があると考えられている。(A) の母親の特徴として、子どもと身体的接触をあまり望まないという点が挙げられる。一方 (B) の母親は、子どもとの身体的接触は拒否しないものの、子どもの発するシグナルに鈍感で、子どものやることを邪魔したり、無視したりすることが多いとされている。

(組み合わせ)

	A	B
1	回避型	葛藤型
2	回避型	拒否型
3	葛藤型	回避型
4	葛藤型	拒否型
5	拒否型	回避型

問9 次の文は、アタッチメント（愛着）に関する記述である。（a）～（c）の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

（a）ピアジェ（Piaget, J.）によれば、乳幼児は、特定の人とアタッチメント（愛着）を形成するようになる。養育者に限らず、乳幼児に（b）応答的に関わる人は特定の人になり得る。特定の人との間に形成されたアタッチメント（愛着）は、他の人との関係性の基盤となる（c）外的ワーキングモデルを形成していく。

（組み合わせ）

	a	b	c
1	○	○	○
2	○	×	○
3	×	○	○
4	×	○	×
5	×	×	×

問 10 次の文は、エリクソン (Erikson, E. H.) が提唱した発達段階についての記述である。

A～Dを発達順に並べた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 「同一性」対「役割の混乱」
- B 「基本的信頼」対「不信」
- C 「親密」対「孤独」
- D 「自律性」対「恥と疑惑」

(組み合わせ)

- 1 B→A→C→D
- 2 B→C→A→D
- 3 B→D→A→C
- 4 C→B→D→A
- 5 D→B→A→C

問 11 次の【Ⅰ群】の用語と【Ⅱ群】の記述を結びつけた場合、記述がない用語を【Ⅰ群】から一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A バビンスキー反射
- B 吸啜反射
- C 口唇探索反射
- D モロー反射
- E 把握反射

【Ⅱ群】

- ア 手のひらに触れると、新生児はそれをつかもうとするかのように握りしめようとする。
- イ 口の中にもものが入るとそれを吸おうとする。
- ウ 唇に何かに触れると、口を開け、触れられた方向に顔を向ける。
- エ 上体を少し起こした状態で、頭の支えを急に外すと、両手を広げた直後に何かにしがみつこうとする。

(記述がないもの)

- 1 A
- 2 B
- 3 C
- 4 D
- 5 E

問 12 次の文は、「保育所保育指針」第2章「子どもの発達」の(3)「おおむね1歳3か月から2歳未満」の一部である。(A)～(D)にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけていく。歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な(A)の発達や新しい行動の獲得により、環境に働きかける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具等を実物に見立てるなどの(B)が発達し、人や物との関わりが強まる。また、大人の言うことが分かるようになり、自分の(C)を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、(D)を話し始める。

【語群】

ア	身体機能	イ	意思	ウ	運動機能	エ	一語文
オ	象徴機能	カ	二語文	キ	意欲	ク	精神機能

(組み合わせ)

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D |
| 1 | ア | オ | イ | エ |
| 2 | ア | ク | キ | カ |
| 3 | ウ | オ | イ | カ |
| 4 | ウ | オ | キ | エ |
| 5 | ウ | ク | キ | カ |

問 13 次の文は、思春期についての記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 思春期は、第二次性徴の発現を機に始まる。
- 2 思春期は、生涯において、最も身長や体重の増加率が高い。
- 3 思春期は、身体的変化に起因する不安定な行動や感情が生起する時期である。
- 4 思春期には急激な身体の変化が生じるが、その心理的影響については個人差が大きい。
- 5 思春期は、第二反抗期、第二の親からの心理的離乳期とも呼ばれ、子どもの自立のために非常に重要な時期である。

問 14 次の文は、「保育所保育指針」第3章「保育の内容」の(1)「保育に関わる全般的な配慮事項」の一部である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 子どもの健康は、生理的、身体的な育ちとともに、自主性や社会性、豊かな感性の育ちがあいまってもたらされることに留意すること。
- B 子どもが自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守りながら、適切に指導すること。
- C 子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮すること。
- D 子どもの性差や個人差にも留意しつつ、性別などによる固定的な意識を植え付けることができるよう配慮すること。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	○	○
5	×	×	×	○

問 15 次の文は、身体感覚を伴う多様な経験に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 子どもの感じる力を高めるためには、直接的に感じる多様な経験をくり返すことで、感覚が受容できる幅を広げていくことが大切である。
- B 環境から情報を得るための身体感覚に加え、考え、判断したことを実行する際や運動として出力する際にも身体感覚は働いている。
- C 野外は、室内に比べて行動の制約が多くなるため、より幅広い身体感覚をとまなう経験ができる環境としては適切ではない。
- D 自分をコントロールできる力が向上すると、周囲の環境に対して自発的に関わる機会が減少する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問 16 次の文は、いざこざの場面における保育士の関わりについての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A いざこざには、相手に対する関心が根底にあると捉え、子どもたちの思いをつなぎ、共生の体験になるよう援助する。
- B 保育士が解決法を具体的に教えることによって、いざこざが発生する機会を除去する。
- C 自分自身で問題に対処できるよう、子どもの状態を受け止め、支えることで、身体的・心理的基盤を整える。
- D 人と一緒に生活していくための規範（善悪・価値・文化）を伝える。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	○	×
3	○	○	×	○
4	○	×	○	○
5	×	×	○	×

問 17 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

自閉症スペクトラム障害をもち、まだ自分の気持ちを言葉で表現できないT君（3歳、男児）は、保育室から廊下に黙って出ていってしまう時がある。そのような時、T君は廊下にあるロッカーにかけてある他児のカバンについているキーホルダーを一つ一つ確認しているような行動をとることが多い。

【設問】

T君に対する保育士の対応として適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A T君が保育室を出ていかないように、保育室に鍵をかける。
- B T君に保育室を出ていかないように、「ダメ」、「廊下に行きません」などの禁止の言葉をかける。
- C T君にとって不快となる音や臭い等の刺激がなかったか、T君が出ていく前の保育室内の様子を振り返ってみる。
- D T君の様子を見守りながら、T君が気になっているキーホルダーについて「○○君のキーホルダーだね」、「ピカピカしているね」などT君の内心を読み解くような言葉がけをする。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	×	○
3	×	○	○	×
4	×	×	○	○
5	×	×	×	×

問 18 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

5歳児のP君は、3歳時に保育所に入所した。当初から、発語が少なく、こだわりがあり、「気になる子」である。就学にあたって、保護者は、Q市の教育委員会に就学相談を申し込んだ。教育委員会の判断は特別支援学級であるが、保護者は通常学級に就学を希望している。

【設問】

その後の保育所の対応として適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 教育委員会の判断を保護者が受け入れられるように支援する。
- B 専門機関との連携を図り、必要に応じて助言等を得る。
- C 情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図る。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	○	○	○
2	○	○	×
3	×	○	○
4	×	○	×
5	×	×	○

問 19 次の文は、障害があると思われる子どもに対する保育の場での支援についての記述である。適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 保育の場での支援は、障害があると思われる子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置づける。
- 2 障害としての診断がついていない場合、障害の診断を専門機関に求める。
- 3 障害の特性によっては、家庭内と集団の場とで異なった姿がみられることもあるので、保護者からの意見は参考にならない。
- 4 障害があると思われる子どもに対して、保育の場では他の子どもと全く同じようにかかわることが重要である。
- 5 障害があると思われる子どもに関しては、支援の方針が異なると子どもが混乱するので、担当保育士が全責任を持つ。

問 20 次のうち、「発達障害者支援法」において発達障害として定められていないものを一つ選びなさい。

- 1 注意欠陥多動性障害
- 2 自閉症
- 3 知的障害
- 4 アスペルガー症候群
- 5 学習障害

